

管長さん年頭挨拶

丙戌年の新春を迎え、お大師さまの加持護念のもと、皆々様の日々ご清安とご浄福をご祈念申し上げます。

さて、来る平成二十七年は、お大師さまが上は国家のため、下は諸々の修行者のため、弘仁七年（八一六）に勅許を得て高野山をご開創されてから千二百年を迎えます。高野山は帝城を避けて二百里、京里を離れて無人声青嵐梢をならして、夕日の影しづかなり、八葉の嶺、八ツの谷、まことに心もすみぬべし。花の色は林霧のそこにほころび鈴のおとは尾上の雲にひびけり。瓦に松おい壁に苔むして星霜久しくおぼえ



（平家物語）高野の巻に、高野山の立地、また霊場としての浄土を思わせる宗教的景観と霊気の漂う雰囲気をお

ますところなく表現している。密教の經典には「都を離れた深山の幽地、山上に平坦な地あり、水流が流れ、人の住めるところ」と説かれている。高野はあまたところなくこれらの条件を満たし、お大師さまは相應の地とし開創を決断されました。高野山はお大師さまのご意志で発願され、自身の思想を具体的に表現された山岳密教の聖地です。深寒、雪深く、人跡、道絶え、土台石一つでも山下から背負いあげなければならぬ所です。金剛峯寺はお大師さまの一私院であり、建築資金も勸進で賄うことで諸事厳しい困難な事業でありました。

一口法話

恩も知らず義務も知らず 反対に犬は律儀で、正義感がつよく、怠りを知らない動物で、人との関わりが深く、ペットとして愛されている。

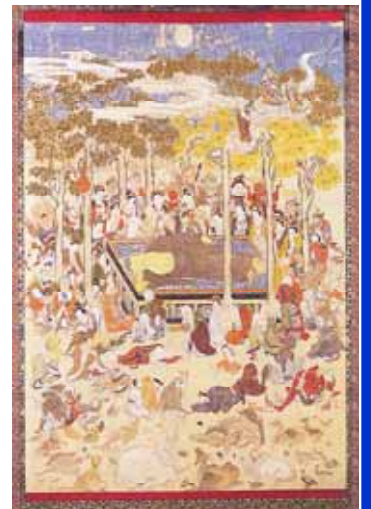
明朗は健康の父、愛情は幸福の母。

お大師さまは第二世真然大徳に山務を委ね、大徳は、その苦難を克服し着工以来七十年、遂にお大師さまの構想を実現されました。お大師さまは天長九年、未成の高野山で萬燈会を奉修。その願文に「虚空尽き、衆生尽き、涅槃尽きなば、我が願いも尽きなん」との永生救済の大誓願を示し、高野山にご入定されました。

歴史は流れて千二百年、お大師さまの御遺徳と高野山浄土信仰と大師御入定信仰を基盤として法灯を今日に伝え、平成十六年には、世界遺産に登録され世界の霊場高野山として知れ渡りました。

お大師さまの御遺徳を讃え、先人の御苦勞を謝し平成二十七年には記念大法会を奉修して感謝の誠心を捧げたいと存じ、わが宗団は諸準備にとりかかりました。

さて今年が戌年です。お大師さまが高野山御開創の砌、黒と白の犬を伴った狩人（高野明神）と出会い、その犬に案内された話が伝わっています。お山では犬は明神さまのお使いとして大切に、また、財団法人紀州犬保存会（和歌山県）は、純粋の紀州犬の保護育成に力をいれておられます。キリツとした利発でたくましいその姿を霊宝館大宝蔵の前に銅像にして保存顕彰しております。高野の山野を跋涉して、曼荼羅浄土の一員として、共に生きてきた名犬です。



2月15日は涅槃会です お参りください

総本山金剛峯寺座主 高野山真言宗管長

南無大師遍照金剛 資延敏雄

空海の言葉 シリーズ

禿なる樹 定んで禿なるに非ず 『秘蔵宝鑑』

いつまでも愚かではない。時がくれば、きっと花が咲く

秋から冬にかけて落葉し、はげ頭のような姿を寒風にさらしている梅・桜・桃などの木々は、もう二度と緑の葉を出さない枯木か、と思わせませう。

けれども二月になれば梅はふくらみ、三月になれば桜はほころび、四月になれば桃があでやかな色を見せてくれます。それは木の根が生きているからです。梅も桜も桃も、いつまでも枯れた姿を見せていません。それぞれ環境条件が整ったとき、定まって絢爛たる花を咲かせるのです。

人間だって生命の根が生きています。梅や桜や桃は花咲く時を知っていますが、人間は自分が花咲く時を知りません。

人間誰もが、運が開ける時をもっています。あなたのお子さんが、いま成績が悪くても、決してあせることはありません。弘法さんが、「定んで禿なるに非ず」といつておられるとおりです。

必ず、お子さんにも花咲く春がやって来るのです。

